

## 平成21年度第2回魅力ある農業・農山村づくり検討委員会 議事録

1 日 時 平成22年2月10日(水) 10時～16時

2 場 所 現地視察(秩父市、皆野町)

### 3 出席者

#### (1) 委員

村上和夫、藤原悌子、吉田文枝、深田賢、村岡隆光

#### (2) 県

大島誠一郎(秩父農林振興センター所長)、前田敏之(農地活用推進課長)

浅野喜正(農村整備課)、大高孝三(農村整備課)、小林雅史(農地活用推進課)

#### (3) 布里・田中地区

岸重義、岸誠一、岸良雄、横田忠男、彦久保利平、船崎實

本多秀夫(秩父市)、新井政信(秩父市)、田村隆次(秩父農林振興センター)、中里靖(秩父農林振興センター)

#### (4) 立沢地区

田中要人、新井昭夫、新井金作

四方田克己(皆野町)、宮原宏一(皆野町)、黒田浩之(秩父農林振興センター)

### 4 主 催 埼玉県

### 5 概 要

(1) 開 会 司会：浅野副課長

(2) あいさつ

ア 大島所長

イ 村上会長

(3) 意見交換(布里田中地区)

・会 長 本日は事業評価をする予定であったが、政権交代で事業評価が持ち越しになったので現地視察とした。苦勞された点や成果などについてお話を伺うのが今日の趣旨。

・委 員 私は40年間農薬会社に勤めていて、今はエコファームについて常に関心を持っている。布里・田中地区は、休耕田が新しい形で利用されており、こういう形を全国的に広げていかなければいけないと思う。

・委 員 私たちの生活クラブでは、三富新田の荒れた平地林の落ち葉掃きなどを年に3回、6年ほどやっている。すると、きれいになった平地林にシニアの男性やカブトムシ目当ての家族連

れが出入りするようになった。農村と関わりたいと思う人はいると思う。

- ・ 委 員 N P Oで見沼で田んぼの再生や斜面林の維持などの体験活動をしている。秩父は山と山の間集落が点在し、それぞれに歴史や風景、文化があったが、やはり交通が不便なため生活環境が現代にマッチしなかった。この地区は、基盤整備とともに行った道路整備によって再生した良い事例だと思う。
  
- ・ 委 員 農園ホテルでの農業体験の参考とするため、いくつか質問したい。
  - ①埼玉県はブルーベリーの出荷額が全国一だと思うが、この8戸のブルーベリー農家の県シェアはどのくらいか。
  - ②観光農業を始めて、どのくらい収入が増えたか。
  - ③エコファーマー、有機J A Sの取得予定は。
  - ④若い方の定着率は。結婚率は。
  
- ・ 地区代表
  - ①シェアは分からないが、秩父で組織化されているのはここだけ。生産農家は増えつつあるが秩父全体で30戸くらいか。県内で他に組織化されているのは美里くらいか。江南は先祖だと思うが販売面が弱かった。ここに来たお客さんは、ブルーベリーはこんなに大きかったのか、こんなに甘かったのかという反応があり、これまでおいしくないのを食べていたようだ。
  - ②収入は観光農園を始めて間もないこともあり、まだお話しできる段階ではない。化学肥料を一切使っていないため収量が低い。もう少し収量が上がるといいと思っている。
  - ③G A Pについてはエコファーマーや特裁認証をとっている。もう少し実績を積んでからJ A Sに行きたいと思う。  
余談だが、三越デパートから出荷要請が来ている。ジャムは契約したが、生も是非ほしいということで、7月に300kg出荷する予定。産地としてのグレードを上げるために大事にしていきたい。
  - ④若い人は特別増えていないが、離れてもいない。お父さんが亡くなったために農業を始めるというパターンが多い。布

里は良くなったという風評が広がっているので、明るい兆しが見えている。

- ・ 会 長 東京農大とはどのような縁か。
  
- ・ 地区代表 ここは昔から年配者の意見が強く、若い連中の意見が通らなかった。ある時、慰労会をやって若い連中の意見を集めた。そこで、昔はハウネンエビやカブトエビが居たんだよなっていう話になった。一時期、農薬や化学肥料でいなくなった。慰労会で話が出たので田んぼに見に行ってみたら、ハウネンエビがいたので、折角だから守りましょうということにした。東京農業大学の長島先生という方が昆虫の先生ということで、その方の同級生がたまたま隣の部落にいたので、紹介してもらった。研究は農大の学生がやって、田の管理は我々がやった。多いときは40人くらい来てくれた。最初は村の年寄りに何を馬鹿なことをしているんだといわれたが、自然が豊かだからハウネンエビが居るのであって、いかがわしいことをやっているのではないと説得した。10年たって活動に区切りを付けた。この3月にはこれに関わった学生を呼んで同窓会をやりたいと考えている。ここに来た男女で結婚をされた方が3組いて、キューピットみたいな形でめでたい。非常にいい体験をさせてもらった。
  
- ・ 会 長 大学生の他に地元高校生や中学生との交流は。
  
- ・ 地区代表 地元の小中学生は大学生と一緒に体験してもらった。ただし夜はお酒が出るので呼ばなかった。中学生でも大学生でも田んぼに入ると、皆無邪気になった。これが人間本来の姿。
  
- ・ 会 長 ほ場整備で田んぼが使いやすくなったと思うが、家族の印象は。工業と違って農業の生産設備を次代に引き継ぐのは大変だと思う。私が子どもの頃は農村は遅れていた。しかし今は逆で、若者は、農村は都会に比べていい暮らしをしているという感覚を持っている。地元の人はどう思っているか。

- ・ 地区代表      私の意見だが、若い人に夢を与えるにはそれなりに収入がないといけないと思っている。私のせがれは42歳になるが、「親父が死んだら農業を継ぐよ。元気なうちはがんばってくれ」という感じ。まだ農業の良さがわかるには時間がかかるのでは。
- ・ 地区代表      ブルーベリー以外は家庭菜園。収入にはつながらない。若い人がある程度大規模にできれば魅力を感じるだろうが、今の状態では生活が成り立たない。
- ・ 地区代表      息子が代官山でシェフをしている。こっちで農業をやってもいいといっているが収入の面で二の足を踏んでいる。子どももおり、できれば秩父で子育てをしたいといっている。奥さんも秩父の人。
- ・ 地区代表      集落の中心に交流拠点があるといいなと思う。料理を振る舞ったりできる。
- ・ 会 長          基盤はうまく整備できて、そのことによって地域の人々の気持ちは盛り上がった。しかし次のステップってというのが重要。農業だけでなく何かと組み合っているのが重要だと思う。今日は時間がなくて申し訳ない。委員の方々を道で見かけたら声をかけてほしい。御協力ありがとうございました。

#### (4) 意見交換（立沢）

- ・ 会 長          委員の自己紹介をお願いします。
- ・ 委 員          見沼田んぼと斜面林の保全活動をしている。以前から「立沢の虫おくり」に憧れていた。このような伝統行事は是非守っていただきたい。
- ・ 委 員          ここに来る途中にある古民家「星ふる里」は当生協の活動拠点。組合員の研修などに利用している。柿は秩父のあちこちで見かけるので自然になるもの思っていたが、大変な手間がかかっているのだと知った。

- ・ 委 員 以前、県の種苗審議会でお世話になっていたが、山間農業にはあまり接点がなかった。今日は勉強させていただきたい。
- ・ 委 員 以前、秩父に住んでいたが、立沢は初めて来た。このような斜面での農業は本当に大変。私ども農園ホテルが主宰する農業体験では、田んぼに「はぜかけ」をしたりするのが大変だと言っているが、ここに比べればとんでもないこと。
- ・ 会 長 先ほど現地で柿の木を植えているというお話をしてもらったが、全体の話聞かせてほしい。
- ・ 地区代表 この地域の蜂屋柿は木の生育が早く、毎年の剪定なくして収穫は望めない。肥料も大量に必要で乾燥にも弱い。果実は表年と裏年が隔年であるので、毎年収穫できる栽培管理を目指しているが未だに技術が確立していない。また、都市住民を対象に柿の収穫体験を3年ほどやっている。募集時期が夏なので、秋の収穫が大丈夫か、やせる思いである。
- ・ 会 長 それは柿の木がある程度大きくなると解消するものなのか。
- ・ 地区代表 それにも期待している。
- ・ 農林振興センター所長 年によって選定方法が変わるのか。
- ・ 地区代表 変わる。裏表なくすには花芽の調整が重要。でもそれだけでは不十分。農林振興センターには毎年剪定講習をしていただいて、裏表のないように努力している。
- ・ 会 長 つるし柿体験ツアーの応募者は多いのか。
- ・ 地区代表 受け入れ能力に限界があるので、1回につき30名まで。去年は3回に分けて75名を受け入れた。県南や西武線、秩父線沿線の方が多く、特に都内の方々の関心が高い。西武鉄道が企画したツアーは大好評で、西武から2次募集の打診があ

ったが、柿が足りないので断った。

- ・ 委 員 80本の柿の木があるとのことだが、多い木で100個弱くらい実を付けるか。
- ・ 地区代表 蜂屋柿は摘果をしない。蜂屋は賢くて実が多すぎると自然落下する。剪定の段階で花芽調整をするだけ。多いものは150個以上は収穫できる。
- ・ 委 員 農園ホテルでは1個100円で体験してもらっている。吊し柿にすれば付加価値で倍くらいの値段になると思うが。
- ・ 地区代表 なるかね。この地区には柿の専門部会があるので一層努力したい。中山間地域等直接支払制度はまさに命の綱。傾斜のきつい場所なので、水やり一つにしても下から100mも200mもホースを伸ばさないといけない。私たちの集落は交付金の個人配分はなく、全て肥料や機械の共同購入、除草作業などに充てている。先ほど地域のお祭りを守っていただきたいというお話があったが、昔の伝統行事はなんとしても絶やさないようにということで、地域が一丸となってがんばっている。
- ・ 委 員 お祭りと農業をセットで1年間体験してもらうのはどうか。
- ・ 地区代表 今年度から新たな取り組みとして、コンサルタントを交えた話し合いをしている。地域を活性化するために8部会を立ち上げ、集落全員がいずれかに入ってもらったこととした。
- ・ 委 員 ただの観光ではなく、伝統財産をぜひ子どもたちに伝えてほしい。
- ・ 地区代表 それには直接支払の交付金を引き続きよろしくお願ひしたい。星ふる里の植林現場を見させていただいた。ここは水源地でもあるので、私たちも荒廃山林をどうにかしたいと思っているところ。また、農園ホテルさんには、是非里山農業体験と

いうコースも御検討いただきたい。

- ・ 委 員 「女将の味シリーズ」という企画で、去年から秩父の素朴な素材を探しているところ。
- ・ 地区代表 平成9年から柿とおやきで村おこしをはじめた。おやきづくりの体験ができるのは秩父でもここだけなので、つるし柿とセットにして体験してもらっている。
- ・ 地区代表 体験で立沢まで来てもらおうと、皆さん口を揃えて「良い所」と言ってくれる。天空の里と呼ばれるようになった。
- ・ 地区代表 秩父にも天空と呼ばれる場所がいくつかあるが、空がこれだけ広いのはここだけだと思う。
- ・ 委 員 おやきはどこかで売っているか。
- ・ 地区代表 おやきは村おこしでやっていること。西武からも話があるが商売は二の次で、立沢に来ていただいて食べていただくことにしている。
- ・ 会 長 どのくらいの人がおやきを求めてやって来るのか。
- ・ 地区代表 冬の時期で月に60名。秋は200~300人くらい。
- ・ 会 長 天空という呼び名が使われる場合、尾根の上とか丘の上とかだと思うが、水はどうしているのか。
- ・ 地区代表 城峯山の湧水を利用している。昔、酒造会社が自社の井戸が切れたときにこの水を使ったという名水である。
- ・ 委 員 湧水を水道として引いているのか。
- ・ 地区代表 そのとおり。水量は豊富にある。8つの部会のうち名水部会を設けており、今後村おこしにつなげたい。

- ・会 長 すみませんが、そろそろ時間ですので閉会にしたいと思います。今日はありがとうございました。